

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和5年度】

2024 年 4 月 2 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 150-0043

所在地 東京都渋谷区道玄坂2-18-11サンモール道玄坂221号

評価機関名 株式会社ハッピーネットワーク

認証評価機関番号

機構 07 - 174

電話番号 03-5941-6571
代表者氏名 廣田耕作

以下のとおり評価を行いましたので報告します。



評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	廣田耕作	経営	H0306056
	②	岡本久美子	福祉	H1601013
	③	田苗和司	福祉	H2201011
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認定こども園			
評価対象事業所名称	りっこう幼稚園			
事業所連絡先	〒	176-0004		
	所在地	東京都練馬区小竹町2-43-12		
	TEL	03-3972-1152		
事業所代表者氏名	角井美穂里			
契約日	2023 年 12 月 7 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2023 年 12 月 7 日			
利用者調査結果報告日	2024 年 1 月 12 日			
自己評価の調査票配付日	2023 年 12 月 7 日			
自己評価結果報告日	2024 年 1 月 12 日			
訪問調査日	2024 年 2 月 6 日			
評価合議日	2024 年 2 月 6 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	りっこう幼稚園は昭和22年に幼稚園として開設され、平成29年度に認定こども園として認可された。定員420人と大きな園であるが、70年以上にわたり培ってきた幼稚園としての実績と認定こども園になってからの変化を比較し、利用者および職員の意識にも気を配りながら、保育園や児童施設の経験豊富な評価者を投入して評価を実施した。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- ☒ 機構が定める部分を公表することに同意します。
☐ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
☐ 別添の理由書により、公表には同意しません。

2024 年 3 月 31 日

事業者代表者氏名 角井美穂里

印

1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定） 1)子ども主役の保育を目指す 2)全職員で全園児の心に寄り添う保育 3)園児も保護者も職員も楽しめる保育
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	(1)職員に求めている人材像や役割 ・子どもを敬う気持ちで愛情をもって向き合える人
	(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感) ・子ども一人ひとりに寄り添う保育を目指すこと

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準项目实施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている ○非該当
	カテゴリ1の講評	
	開設から80年に近い幼稚園を基本にした認定こども園の運営に取り組んでいる ベビーブーム世代を対象に昭和22年に幼稚園として開設、平成29年に認定こども園に指定された。定員は420人と大規模で幼稚園としての70年以上の歴史に加え、6年前からは認定こども園として地域の保育所不足に対応している。「子供たちにとって認定こども園が『楽しい』」と、保護者・地域から『信頼され』、全職員が『喜びをもてる』職場になる、ことを理念に掲げ、広い園庭と多様な遊具、黒やぎや果樹、畑とピオトープ付きを特長としている。理念等は経営案で職員等に伝えるほか、園だより、全体保護者会などで保護者にも伝えている。	
	園児が減少傾向だったため満3歳児保育と子育て広場開設により経営努力している 理事会と園長等とで経営・運営を分担し、職員会議や経営案で職員に自らの考えを伝えるほか、有言実行・言行一致を旨に自ら手本を示している。常勤職員の勤続年数は10年と長く、長年地域に深く根ざしている。8年前に園舎改築を終え、園庭の維持管理のため職員によるトンボ掛けを励行しており、幼稚園の豊かでのんびりとした雰囲気の中に、地域で保育に欠ける児童が通うという新たな流れができていく。都内の少子化の影響から入園児が減少傾向だったため、来年度からプレ保育・満3歳児保育導入、子育て広場開設に取り組み減収を防いでいる。	
	多様化する要望に応えるスキルが必要で他園の取り組みの研究も必要と感じる 重要な案件は経営層が相談して月1回の職員会議で決める手順が決まっている。速やかに報告・連絡・相談をおこない、決定事項や事故報告なども朝礼時に迅速に伝えている。職員アンケートでは「通常保育を再開して食育中心に活動が活発になってきた」、「アプリとタブレットの導入で事務処理が迅速におこなえる」など評価する声がある一方で、「人手不足が深刻で仕事量に差があり過ぎる」ことを指摘する意見が出ている。今後は多様化する保護者ニーズに応えるため各種スキルが必要で、他園の取り組みなど研究して取り入れる姿勢が必要と感じる。	

カテゴリー2		
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行	
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(○○○○○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(○○●)
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
収集した地域情報の活用と共に更なる地域での活動の取り組みを求めたい 大きな行事の後にはアンケート実施して次年度に活かしている。地域に対しては幼保小連携協議会への参加のほか、地区祭や地区育成委員会などに参加することで情報収集し、その内容は会議録に残している。また、認定こども園など業界全体の動向については、練私幼の設置者、園長会議に参加することで各地域や他園情報を収集している。「地域の方から信頼される認定こども園になる」ために、地域住民や各種団体との連携を積極的に実施している。把握した情報の活用および地域での活動には、さらに積極的に取り組む必要があると感じる。 園の周知と園児募集のためにもホームページの整備・充実と更なる活用を希望する 地域の関係機関としては、幼保小連携協議会への参加、地区育成委員会への協力を実施している。特に卒園後に進級するであろう近隣小学校・中学校とは緊密な交流を図っており、先生方と一緒にレクリエーションを楽しんだり、体育実技研修会に参加するなど、先生同士の交流には長い歴史がある。今後、地域の方にもっと園のことを知って貰えるように、募集説明会のチラシ配布のほかホームページを活用して、保護者や地域団体との連絡がスムーズにおこなえるような整備・充実を希望する。 毎年保育年間指導計画表に沿った活動を実施している 理念の実現に向けた中長期計画は確認できなかったが、保育年間教育指導計画表は策定しており、各行事毎の計画書も作成している。計画策定にあたっては職員会議にて前年度の活動結果について話し合い、反省を次年度に活かせるよう取り組んでいる。計画実行にあたり先進事例や失敗事例については、園内研修を実施して他の施設や幼稚園などを見学し、見識と理解を深めている。計画推進にあたり目指す目標と達成度合いを測る指標については職員会議や園内研修などで話し合っており策定している。		

カテゴリ3			
3 経営における社会的責任			
サブカテゴリ1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2	
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。		○非該当
サブカテゴリ2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4	
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		○非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		○非該当
サブカテゴリ3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5	
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		○非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		○非該当
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		○非該当

カテゴリー3の講評	
人間関係や保育の悩みを抱えている人には園長等が個別に話を聞き指導助言している 職員が守るべき法・規範・倫理としては、服務の心得の中に服務規程、就業規則、禁止事項などのほか勤務時の基本姿勢が書かれており、内容を全員で読み合わせたり教職員が保つべき姿勢について助言する機会を設けている。人間関係や保育について悩みを抱えている人には園長などが個別に相談に乗り、指導助言を実施している。キリスト教を基にした運営のため、毎週月曜には牧師による礼拝を実施している。透明性を高めるための取り組みとしては、今年度3度目の第三者評価を受審するほかホームページや園だよりにて園の現状を伝えている。	保護者等からの意見・要望は運営に活かすと共に保護者への報告も希望する 苦情解決制度については年度当初の全体保護者会にて、年間計画表等を配付して説明をおこなっている。保護者からの相談や意見がある際には、園長、副園長、担任が面接をおこない、電話連絡をしている。聞き取った内容は記録簿に残し、職員会議などで披露、周知させている。今回の家族アンケートでは約3分の1の家族が回答し、非常に多くの意見・要望・苦情が寄せられていた。貴重な意見も多くあるため、アンケート内容について職員間で話し合うと共に改善点をまとめて次年度に活かして貰いたい。さらに、評価結果の保護者などへの周知もお願いしたい。 行事開催時には近隣住民にも協力を依頼して好意的に受け入れて貰っている 専門性を活かした取り組みとしては、地域子育て支援事業、園庭開放や未就園児教室を実施している。また、地域の方や小・中・高校、老人ホームなど関係機関との交流を深め、研修会指導をお願いしたり、イベントや近隣への施設見学や訪問をしている。70周年記念行事などの際にも協力を仰ぎ、快く引き受けて貰っている。ボランティア受け入れについては園長自身が保護者を始め各団体との交渉をして、各学年毎に体験実習などを進めている。小学1年生と幼稚園児との交流や小学校の授業参観、体育実技研修会など交流を続けている。

カテゴリ4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリ1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ4の講評		
既に義務化されたBCPは危機管理マニュアルをもとに早急に策定するよう望みたい 現状では感染症予防を第一に考え、事故、侵入、地震・水害など優先順位を考えている。緊急事態発生時の対応として全職員にプリントを配布し、危機管理に備えている。危機管理に対しては職員が誰でも対応できるよう、各種マニュアルを作成している。BCP(事業継続計画)は既に義務化されているが、危機管理マニュアルをもとに早急に策定するようお願いしたい。 安全の確保・向上のため園務分掌にもとづき事故発生時の対応方法をまとめている 園児の安全の確保・向上のためにはまず園務分掌を作成して先生毎の役割分担を決め、担当責任者が計画・立案をおこない、職員会議でよく話し合っている。園内事故や外部侵入など個々に事故等発生時の対応方法をまとめて示し、緊急時連絡体制と連絡網は警察・消防・医療機関(園医)などの連絡先や手順を明示している。取り組み内容は新年度全体保護者会にて説明し、学級懇談会や園だより、保健だよりなどで周知している。防犯やセキュリティ、監視カメラや電気錠設置、駐輪場の管理など可能な範囲で対策を実施している。 ICT化を進めアプリを導入して申し込みや欠席確認などスムーズにできるようになった 人員不足などを背景に園ではICT化を進め、アプリを導入して申し込みや欠席確認などスムーズにできるようになった。情報管理は文書保管とPC管理でアクセス権限を設定し、職員名簿、給与、緊急連絡網などはPC管理して施錠可能な書庫で保管している。個人情報保護は保護者には契約時に重要事項で説明し、職員には採用時や研修・職員会議などで伝えている。採用時には秘密保持契約に署名・捺印を貰い、実習生・ボランティアも同様である。個人情報の保護・共有についてHPや写真掲載の承諾などリスクマネジメント意識を高めるよう希望する。		

カテゴリ5		
5	職員と組織の能力向上	
サブカテゴリ1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 11/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	☐ 非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している 評点(〇●)		
評価	標準項目	
☐ あり ☒ なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	☐ 非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	☐ 非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賞金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	☐ 非該当
サブカテゴリ2(5-2)		
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	☐ 非該当

カテゴリー5の講評

求める人材像を明示して幼児教育者としての資質を高めるよう指導している

求める人材像を「子どもを敬う気持ちで愛情をもって向き合える人」、「子ども一人ひとりに寄り添う保育を目指すこと」と定め、保育実習生やインターンシップ学生なども含めて体験や面接をして、職員採用をしている。採用後は自己申告書や人事希望聴取表などで業績評価をおこない、適材適所の配置をおこなっている。また、職員の研修予定計画書に基づき内外の研修にも参加して貰っている。

園長が率先して楽しくやりがいのある職場づくりに取り組んでいる

園長が率先して楽しくやりがいのある職場作り、雰囲気作りをして、何でも気楽に話し合える場になるよう努めている。専門職研修に励み、指導力の向上、質を高め誇りをもてるような指導助言をしている。全職員が幼児教育に対する信念・教育観を持ち、教育者としての責任感、子供に対する愛情、保護者からの信頼及び自ら指導力を学び、発揮できるようにしている。職員アンケートでは「保育補助の先生が入り作業負担が軽減された」、「畑で野菜を育てヤギや鶏飼育など情緒教育に望ましい経験ができる」を評価する声が多く、園の姿勢が良く伝わってくる。

今後は認定こども園としても独自性があり地元になくてはならない園を期待する

業績評価に沿って個人面接を実施し職員一人ひとりの長所・短所を記録して人事希望聴取表等にて取り組んでいる。個人面接は随時おこない、園内のスポーツ研修等でリフレッシュする機会を設け、行事等での達成感を味わって貰うように努めている。当初は認定こども園になり土曜出勤や夏休みなどの出勤が増える事が想定されたが、出勤増や勤務時間増などは少なくして残業も減らしたことでスムーズな運営につながっている。今後は幼稚園に加えて認定こども園としても独自性をさらに発揮し、地元にとってなくてはならない園となるよう希望する。

カテゴリー7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ) ・法人理事会から経営責任の指摘を受けたことを受け、少子化による園児減少下であるが、新園舎建築の借金返済のため経営難を乗り越えることを目標に据えた。 ・具体的には、課外活動の積極的導入、受けられる補助金への対応、来年度からの特定負担額徴収と満3歳児保育の導入開始、子育て広場の開設に取り組んだ。 ・その結果として、危機的な経営難から回避することができた。	
目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評 ・振り返りと今後の方向性としては、今後は子育て支援の強化に取り組んでいく。	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

- ・子育て広場が好評だったこと、課外活動希望者が増えていること、満3歳児保育への期待がたかまっていることを背景にして、経営難を乗り越えることを目標に据えた。
- ・具体的には、課外活動の積極的実施、補助金受給への対応、特定負担額徴収と満3歳児保育の導入への備え、子育て広場の開設に取り組んだ。
- ・その結果として、危機的な経営難から回避する道が見えるようになってきた。

目標の設定と取り組み	☒ 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ☐ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ☐ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	☒ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ☐ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	☒ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ☐ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ☐ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

- ・振り返りと今後の方向性としては、今後は練馬区などとも連携して、子育て支援の強化に取り組んでいくことを事業計画に盛り込んでいる。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
	サブカテゴリ1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		☐ 非該当
サブカテゴリ1の講評			
ホームページをリニューアルしてより分かりやすく情報提供している リニューアルしたホームページには「たくさん遊んでこころを育む」と掲げ、園の歴史動画と園紹介の動画を視聴できるようになっている。3つの基本方針「遊び・食育・礼拝」、お知らせ、「入園をご希望の方へ」と題し、保育について・一日の流れ・環境について・年間行事について写真を多く使って分かりやすく紹介している。入園案内、りっこう通信、アクセス・問い合わせ、法人について掲載し、見学希望者や家族等が知りたいであろう情報をもれなく掲載している。今年度新装した「園の案内」にはホームページのQRコードを付与して連動させている。 令和4年5月にSNSを開設しタイムリーな情報発信に努めている ホームページのお知らせに令和4年5月にSNSを開設したことを案内し、可能な限りタイムリーな情報発信に努めている。「たくさん遊んで心を育む」子ども達が主役です。一人ひとりの想いをうけとめ、心に寄り添う保育を大切にしています、と謳い、3つの方針である「遊び・食育・礼拝」の様子や行事や炊き出し・果樹・課外活動に取り組む子どもたちの様子を、写真とコメントとともに分かりやすく伝えている。SNSで保育の生の姿が味わえることへの喜びの声が多く聞かれることが、保育者のモチベーションアップにもつながっていると考えます。 令和6年度より満3歳児保育「たんぽぽ組」を新設する旨を説明会時に伝えている ホームページで、園児募集見学会開催期間を10月に6日間設け、各日10名までを電話予約で受付対応可能としている。子ども同伴で園内と園庭を自由に見学してもらい、見学終了後に質疑応答の時間を設けている。また、新入園時募集説明会を事前予約制で9月に1回目、10月に2回目を実施し、説明会終了後から窓口にて願書を配布している。令和6年度より満3歳児保育「たんぽぽ組」を新設し、プレ保育入会の方のみ3歳の誕生日の翌日から満3歳児クラスに入園できるようにして、プレ保育説明会時に丁寧に伝えている。			

サブカテゴリー2			
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		☐ 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
☒ あり ☐ なし	1. サービス開始時に、子どもの指導・援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		☐ 非該当
サブカテゴリー2の講評			
事前説明会や1日体験の際に基本的なルール等について説明している 事前説明会や2月新入園児1日入園体験の際に基本的なルールについて説明し、新入園児保護者向けに入園のしおりや入園式について、入園式翌日からの保育、1号認定預かり保育について、家庭調査書、年会費、緊急時における園児引き渡しに関する調査書等の書類一式を配布して丁寧に伝えて誓約書に同意を得ている。年4回の全体保護者会や個人面談会の都度保護者意向や要望を聞き取り、懇談会記録に残している。保護者アンケートで「バス利用で話す機会があまりないことや面談回数・相談しやすい雰囲気について」意見ががっている。 入園式翌日から2日間は慣れるためグループ保育を実施している 今年度は4月10日に進級式、11日に入園式をしてスタートし、入園式翌日からは子ども達が安心して過ごし慣れるため2日間はグループ保育を実施している。グループは4月から9月生まれと、10月から3月生まれとに分け、登降園時間も8時45分から10時と、10時15分から11時30分とに分けて対応している。担任が細かい個人記録、指導要領に記載して全職員で情報共有し、園が大切にしている「個々の心に寄り添う保育」を目指している。保護者とは何かあれば引き渡し時に口頭や電話連絡にて伝えて情報を共有している。 子どもや保護者に寄り添う支援に努めている 4月のクラスだよりには「園で過ごす最後の1年間。今まで憧れだったたくさんのことに挑戦し友だちと様々な経験を共感し合い、時にはぶつかり合って、今だけのかげがえのない時間を心豊かに過ごせること」を願っている。保護者アンケートでは「子どもの発達のことや年少から相談させてもらい子どもが話してくれない時も担任の先生から必ず話があり有難かった。年長になり小学校へ提供できる支援シートなどについて詳しく教えてもらい助かりました」との意見があり、寄り添う支援がなされていると感じる。今年度112名が卒園予定となっている。			

サブカテゴリ-3		
3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 13/13
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	☐ 非該当
評価項目2 全体的な計画(教育課程を含む)や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 指導計画は、全体的な計画(教育課程を含む)を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、指導の過程を踏まえて作成、見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている	☐ 非該当
評価項目3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 指導計画に沿った具体的な指導・援助内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	☐ 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
☒ あり ☐ なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、指導・援助を担当する職員すべてが共有し、活用している	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	☐ 非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、指導事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている	☐ 非該当

サブカテゴリー3の講評

子ども一人ひとりの指導要録に成長の様子を残し共有している

家庭調査書(アレルギーを含む)、緊急時における園児引き渡しに関する調査書、健康調査表・生活環境調査表等の書類一式を入園前に配布し保護者に記載してもらって把握しているほか、指導要録には子どもの成長の様子を記録して職員間で共有している。課題が生じた場合は速やかに見直している。全学年にわたる年間指導計画(学級経営案)を基本に週案を作成して、「今週の目標」、曜日ごとの主な活動・経緯、ねらいを記載して保育を実践している。発達に課題があり配慮が必要な子どもには巡回指導を受けて共有し保育に活かしている。

クラスだよりに「目標」や行事前のお知らせで「ねらい」を保護者に伝えている

過去にとらわれず今の子にはどうかを全職員で常に心がけ、毎月のカリキュラムや週案を立案して共有し見直している。毎月発行するクラス(学年)だよりに次月の各学年共通目標、例えば、5月「動き出す」・6月「見つける」・7月「心ひらかれて」等をあげ、それについての「ねらい」を記載して取り組むことを紹介している。また、5歳児は子ども達からの「おにぎりをつくってみたい」の声を受けて挑戦し、「ねらい」に「自分でつくることを楽しみみんなで同じものを味わう」をあげて取り組むことを事前に保護者に伝えている。

朝礼や終礼を連絡ノートに記載して洩れない情報共有に努めている

指導要領と個人票は誰でも見られるよう職員室書庫で保管している。朝の礼拝後に実施している朝礼では、園長や各クラスからの伝達事項等を詳細に伝えている。また、出勤時間がまちまちなため全職員が共有する朝礼や終礼の情報は連絡ノートに記載し、洩れないようにしている。連絡ノートには朝礼・終礼と分けて記入し、園長の言葉をはじめ家庭でケガをした様子、いつから登園再開出来るのか等、どのクラスの子どもの情報なのかも共有して対応に努めている。毎週学年会を開き学年ごとで指導事例を話し合い、共通理解を図っている。

サブカテゴリー5			
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	5 / 5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した指導・援助を行っている	○非該当	
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の教育・保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した指導・援助を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○非該当	
サブカテゴリー5の講評			
個人情報保護についてホームページに明記して取り組んでいる ホームページには個人情報について、「案1」、1法令・規範の遵守、2個人情報の取得、3個人情報の利用、4個人情報の管理、5個人情報の開示・訂正・利用停止・消去についてプライバシーポリシーを定め、「案2」、1法令・規範の厳守、2個人情報の利用と収集範囲、3個人情報管理・セキュリティの確保・向上、4第三者への提供・開示の禁止、5教育・啓発、6問い合わせを明示し、個人情報の適切な管理・利用に十分配慮して取り組む、と定めている。SNSや動画配信、園案内で子どもの写真を掲載する際は、予め保護者に伝え可否を確認している。 入園までに6つの項目をあげて家庭で取り組んでほしいことを伝えている 子どもの羞恥心への配慮では、担任が個々に応じた取り組みや指導をしている。入園のしおりで保護者の心得の中に、入園までに、自分で排泄・洋服の着脱・靴の履き替えができる・早寝早起きの習慣づくり・できることは自分でする習慣づくり・毎朝、排泄をする習慣と後始末ができる・手洗い、拭く、鼻をかむ事ができる・挨拶の習慣づくり(おはようございます・さようなら・ありがとう等)をチェック項目としてあげている。今後は子どもが自分自身を守るようプライベートゾーンについて伝えたり、清潔・不潔への理解が深まる取り組みも必要と考える。 年2回発達支援や虐待に関する研修をおこない知識・技術の向上を図っている 今年度も年2回、発達支援や虐待に関する研修を巡回指導者を講師に開催し、入手した資料を活かして学年ごとにワークショップ的なこと(先生と子ども役)で振り返る機会を設け、職員から「大きな声もそれに当たることに気づいた」など感想を得ている。保護者心得では、園内で発生した子ども同士のトラブル等は、園側が気づかなかった場合は担任に知らせるよう依頼しているほか、小さな怪我(擦り傷等)は連絡しない旨を伝えているが、保護者からは「子ども同士のトラブル」や「ケガ等の対応」への意見・要望が聞かれている。			

サブカテゴリー6	
6 事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている ○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている ○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している ○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている ○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている ○非該当
サブカテゴリー6の講評	
職員の資質の向上と研修の充実に力を入れている 今年度事業計画では、認定こども園であるが幼稚園型であり幼児教育の充実、特にインクルーシブ教育にこれまで以上に積極的に取り組みたいと考えていて、11項目をあげて取り組んでいる。また、職員の資質の向上と研修の充実では、新規採用職員の研修や職位に応じた研修に力を入れている。大学から教育実習生の受け入れ希望も多く、昨年度は7名を受け入れて育成するとともに本園の教育方針や良さを理解してもらっている。受け入れ時には誓約書を交わし、実習生の心得・実習生保育の流れに沿って実施している。	
保護者が安心できるように園バス対応手順を書面で説明している 通園バスあかコース・あおコースをラミネートでラインを引いて分かりやすく工夫し、前年度9月には「園バスの園児置き去り事件報道」を受けて保護者が安心できるように、当園での園バス対応で登園受け入れ・降園時の乗車について記して配布しているほか、2月には「園バス到着時の対応」を作り、周知徹底を図っている。保護者アンケートで「安全対策でつけたバスボタン装置の手順で実施しているのかまで教えて欲しい」との意見があった。	
避難訓練や引き渡し訓練をおこない落ち着いて動けるよう取り組んでいる 緊急事態発生時の対応及び緊急連絡体制マニュアルを作成し、不審者と事故発生について迅速な対応ができるよう図っている。前年度研修で、東京消防庁による「心肺蘇生法、AED訓練」を実施したり、避難訓練や保護者への引き渡し訓練をおこない職員・子ども・保護者がいざという時の動きが落ち着いてできるよう取り組んでいる。保護者アンケートで「門のセキュリティ強化」のほか、「遊具の安全性の確認」、「園内での子どもの確認(見失い)」を望む声が聞かれた。廊下や階段を子どもが勢いよく走る姿も見られたためルールなどがあると良いと考える。	

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ-6-4)

サブカテゴリ-4	
サービスの実施項目	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 36/36
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた指導・援助を行っている 評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目
☒ あり ☐ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで指導・援助している ☐非該当
☒ あり ☐ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している ☐非該当
☒ あり ☐ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している ☐非該当
☒ あり ☐ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の教育・保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう指導・援助している ☐非該当
☒ あり ☐ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている ☐非該当
☒ あり ☐ なし	6. 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、指導・援助している ☐非該当
評価項目1の講評	
子どもの発達状況を把握し一人ひとりを大切に保育を実践している 入園時には家庭調査書による健康状態や家庭環境等の基本情報と、緊急時における園児引き渡しに関する調査書等から現状把握し、個人面談等をして可能な限り情報収集して保育に活かしている。全児童が自分の好きなことを見つけられるよう興味を引くために環境を工夫し、子ども自身が主体的に関われるよう職員が見守りながら指導に当たっている。登園すると園児が個々のペースで身支度を済ませ、どのクラスにも行き来自由で好きな遊びを楽しんでいる。子どもの動きを妨げることなく好きな遊びにじっくり取り組める環境になっている。 宗教や芸術、動物や植物などに触れ合う情操教育とインクルーシブ教育に取り組んでいる キリスト教を主体とし全園児が毎週の礼拝やお祈りをおこない、神様に守られている安心感や喜び・感謝の気持ちを育んでいる。果樹や野菜の収穫を体験し太陽と雨の恵みに感謝する食育活動やヤギやニワトリ等の動物を飼育して、命の尊さを学び豊かな心を育てる情操教育をしている。また日常的に異年齢児との交流をして、配慮が必要な児や自分より小さな児に対して教える・思いやる・支え合う気持ちが育まれるインクルーシブ教育も取り入れている。恵まれた自然環境の中で、子どもたちは思う存分遊びに没頭して生き生きと過ごしている。 人間形成の基礎を養う教育を基本に社会性を養い創造性豊かな保育を実践している 学校教育法における「幼児教育は就学前の準備教育ではなく人間形成の基礎を養うことが教育の基本」を踏まえ、子ども同士が共有する時間や自然の中での遊びを通して「健康・人間関係・環境・言語・表現」等の領域を大切に保育を実践している。また個性を活かして社会性を養い、創造性豊かな心が持てるよう、一人ひとりの心に寄り添った保育をしている。敷地内学童クラブとも連携して行事等を通じて卒園生との交流を図り、近い将来を見通すことができる機会も作っている。園長は地域の幼保小連携による会議に参加して情報収集に努めている。	

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した教育・保育を行っている			評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう指導・援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		○非該当
評価項目2の講評			
登園時には保護者とのコミュニケーションを大切に子供の様子を確認して受け入れている 新規入園児保護者には入園のしおりを配布して、園の保育・生活・保護者の心得・留意事項を明記して伝えている。また在園児保護者に対しても別紙にて園生活のお願いを配り、利用に関する詳細な決まりごとを改めて周知している。今年度はセキュリティ対策として正門に鍵が設置され、時間による自動施錠式のため保護者には送迎時間の厳守をお願いしている。担任は保育室前ビロティにて保護者から家庭での様子を聴き取り、子どもの顔色や機嫌等を視診で観察するなど気持ちの良い挨拶を心掛けて笑顔で対応している。 幼稚園機能が主体であり午睡は推奨していないが子どもの状況に配慮した対応をしている 幼稚園機能が主体のため現状では午睡は推奨していないが、延長保育(9時～17時)や長時間保育(7時30分～18時30分)など入園により慣れない環境となった場合は、子どもの年齢や家庭状況に配慮して午睡の有無を選択している。午睡の長さや時間帯は健康状態や家庭での生活リズムに考慮して、一人ひとりに合わせた入眠時間や休息時間として調整している。就学を考慮し5歳児には午睡を推奨していないが、保護者との日々の情報交換により家庭事情や体力維持などの個別事情に配慮して、休息や午睡時間を設けるなど柔軟に対応している。 登降園時には保護者との関係性を大切に子どもには自立に向けて指導している 登園時間になると園長は毎日正門に立ち、保護者との挨拶を交わして子どもの様子を把握し受け入れている。園長との朝の挨拶が生活のルーティーンとなっていて、配慮が必要な園児にはしっかりと向き合っている。就労体系の変化でワンオペ育児者も増え基本的な生活習慣が身に付いていない児も多く、家庭状況を共有し多様化する保護者ニーズにも対応する等、生活習慣自立に向けた指導をおこなっている。登降園時の身じたくも自分でできるように年齢に応じた方法で働きかける等、家族との良好な関係作りと信頼関係を大切に保育をしている。			
3 評価項目3 日常の教育・保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している			評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう指導・援助している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている		○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている		○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している		○非該当
評価項目3の講評			
それぞれの子供の興味や関心を引き出し好きな遊びに夢中になれるようにしている 好きな遊びを見つけ夢中になる楽しさを味わうことをねらいとした「みんなのじかん」が週案に組み込まれ、遊具で遊んだり砂遊びしたり、虫探しや動物と触れ合う外遊びや、室内での塗り絵やちぎり絵、かんむり作りやお店屋さんごっこ等、友達や異年齢児との関わりを深めながら「自分の好き発見」を楽しみ存分に味わっている。職員は年齢層も幅広くバランスの取れた職員構成になっており、子どもと一緒に遊びながら年齢に合った指導をしている。全園児を全職員がワンチームとなって個々の思いを受け止め、心に寄り添う保育の実践を目指している 週初めの礼拝を大切に讃美歌などの歌や読み聞かせの絵本を毎月決めて保育をしている 牧師がおこなう月1度の朝の話から、静かな気持ちで神様の話を聞く毎週の礼拝、日々のお祈りでいつも神様が守ってくれる安心の気持ち、感謝の気持ちを大切にして、各児に寄り添った保育をおこなっている。自由遊びが終了するとクラス毎の朝の集まりと当番活動の時間となり、月の歌をピアノの音に合わせて、大きな声で唄いながら活動がスタートする。心穏やかに昼食が摂れるよう讃美歌を唄い、帰りに一日の振り返りと絵本の読み聞かせをしている。各家庭に月間絵本を配布するほか貸し出しもする等、絵本の魅力も伝えている。 野菜の収穫やサンマ祭りを体験し自然環境の変化から四季の移り変わりを感じている 食育の一環として園内の農園を活用し、子どもが季節ごとの野菜栽培にも関わり収穫につなげている。年長組を中心に野菜の種まきから雑草抜き、水やりをおこない、日々成長を見守りながら野菜の収穫を体験している。収穫した作物はクラスで調理して試食するなど、関わりの中で自然の力を学んでいる。保護者協力の下、秋の味覚を堪能するサンマ祭りでは、骨の外し方を覚えたり、魚が苦手な子が初めて食べて美味しさに感動したり、四季折々移り変わる園庭の風景を体感するなど、自然と共に成長できる環境となっている。			

4 評価項目4 日常の教育・保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している			評点(〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している		○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している		○非該当
評価項目4の講評			
たくさん遊んで心を育む子どもたちの提案を活かした様々な活動を展開している 幼稚園恒例の年間行事は決まっているが、具体的内容は子どもたちの思いや提案を取り入れ、子どもが主体的に活動できるよう職員がサポートしている。遠足や夏祭り、運動会やクリスマス会など、クラスや学年毎に話し合いを持ち、1つの行事に作り上げている。チャレンジコーナーでは様々なことに興味を持てるよう内容を広げ、自らチャレンジできる環境になっている。折り紙、けん玉、あやとり、こま回し、皿回し、縄とび、鉄棒等々、皆からの応援や拍手を励みとして、検定試験をクリアできた人には名人の称号が授与される仕組みである。 最後までやり遂げることの大切さを学び達成感や充実感につながる運動会をしている 幼稚園生活での一大イベントの運動会では、園長から「最後まであきらめない名人」を目指すことが提案され、クラス毎に一致団結して仲間と共に励まし合いながら運動会に向けて取り組んでいる。2学期がスタートすると全園児による「運動会ごっこ」が始まり、各学年での競技に対する練習や作戦会議も盛んになって、勝つための自主トレや秘密特訓を始める等、子ども同士で声を掛け合い励まし合いながらりっこう幼稚園ならではの運動会を作り上げている。年長児は最後まで裸足で競技し、力を合わせ一体感が得られるプレイバルーン共演は圧巻である。 子どものたちの世界を保護者にも味わってもらおう企画や働き掛けをおこなっている 保護者も一緒になって子供の成長に関われるよう保育参観や親子行事など年間行事予定表を年度初めに配付し、早めに仕事を調整して参加できるよう配慮している。事前に日程や詳細、内容等を記載した案内や、行事に向けた活動の取り組みをりっこうだよりやクラスだよりで知らせている。毎週月曜日の炊き出しボランティアや親子体操、体育参観、運動会、音楽会等、子どもが多く拍手を貰う体験をして達成感や満足感を味わい、互いの良さや頑張りを認め称賛する心を育む機会となっており、子どもの成長を直接感じ取れる機会となっている。			
5 評価項目5 在園時間の異なる子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 在園時間の異なる子ども同士が楽しく遊べるよう配慮をしている		○非該当
●あり ○なし	2. 在園時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている		○非該当
●あり ○なし	3. 在園時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている		○非該当
評価項目5の講評			
年齢の異なる子ども同士が共に活動できる機会を設け社会性や協調性を育てている 幼稚園保育目標を基本に様々な活動を通して友達との関わりを大切に、同一学年はもちろん上下学年との関わりが持てる保育環境を作っている。新年度に入ると不安そうな表情で過ごしている年少児に対し、帰り支度を手伝い見守りながら一緒にひと時を過ごす年長児の関わりは長く継承されている。年下の子どもを常に見守り、子どものつぶやきから年少クラスとの交流活動につなげるなど、幼少時代の自分を省み、小さい友達から頼られることの喜びを味わい、優しく思いやりの心が育まれるよう、自主的に交流できる機会を設けている。 早朝や夕方以降の時間帯も日中同様に安心して過ごせるよう配慮している 保育終了後、日頃忙ししている家庭に代わって家庭的な雰囲気の中で18時まで預かる延長保育「あひるルーム」(1号認定)と、保護者の家庭事情から保育の必要性の認定を受けた子どもが、7時半から18時半迄の時間以外や夏休み等の長期休み期間も預けられる長時間保育「バンダルーム」(2号認定)があり、多様化する保護者ニーズに対応している。通常保育時間はあひるルームと共に活動し、17時以降はバンダルームに移動して異年齢児との関係を大切にして、各児童が安心して自分の好きな遊びができるよう環境設定している。 保育終了後には子どもや家族が希望する様々な課外活動を曜日ごとに提供している 14時の保育時間が終了した午後は、延長保育や長時間保育の子どもたちと共に幼稚園での課外活動がおこなわれている。課外活動はあくまでも個々の希望による活動ではあるが、普段関わりのない子どもたちと共に活動することで友達ができやすく、保護者にも送迎時間を遅らせるメリットがあるため、多くの子どもが参加している。ピアノ・書道・英語教室、サッカー・ヒップホップ・チアリーディング等があり、特にアヒルスポーツではオレンジ色の体操着に着替え、走って飛んで跳ねるなど多くの陸上競技や様々なゲームなどで和気あいあいと過ごしている。			

6 評価項目6 子どもが食事を楽しめるよう配慮している			評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している		○非該当
●あり ○なし	2. 園で提供する食事は、メニューや味付けなどに工夫を凝らしている		○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している		○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている		○非該当
●あり ○なし	5. 保護者や地域の多様な関係者との連携及び協働のもとで、食に関する取り組みを行っている		○非該当
評価項目6の講評			
天気の良い日には庭園に出てピクニック弁当を楽しむなど雰囲気作りを大切にしている 子どもたちの楽しみの1つになっている屋食タイム、天気の良い日は園庭に出てピクニック気分で食事をするなど、楽しい雰囲気の中で食事ができることを大切にしている。普段は子どもが教室に集まり讃美歌を唄いお祈りした後に「いただきます」の掛け声で食事を始めている。保育園では保護者の愛情がこもった手作り弁当を推奨しているが、提携する業者の給食弁当を申し込むことも可能である。毎週月曜日はおにぎり弁当の日として、収穫した野菜を使ったみそ汁等の炊き出しが振舞われ、そうめんみそ汁が子どもたちの人気となっている。 食物アレルギーの対応では誤食等が起きないように手順を守って対応している 食物アレルギーについては入園時に保護者との面談にて情報共有している。アレルギーを持つ子の情報はリスト化され、職員室内に掲示して共有を図り、おやつ提供に当たっては原材料成分表を確認しながら、極力誰もが食べられるものを選択している。調査当日には子どもたちが園庭で列を作り、冷凍ミカン・冷凍ザクロが各々手のひらに配られて美味しく口に頬張っていた。りっこうレストランでは、さくらんぼ、干し柿、夏みかん、イチゴ等、園で収穫できた多くの果物や野菜を使ったおやつも提供され、実りに感謝する時間となっている。 子どもの食への関心と意欲を育てる食育活動には組織全体で取り組んでいる 恵まれた広大な敷地に樹齢百年以上のメタセコイヤ・シイの木・プラタナスや銀杏の巨木が植えられ、みかん・梅・サクランボ・キウイ・いちじく・柿・ザクロなど果樹の他に、園内にある50㎡程の農園を活用した野菜収穫から四季を通して様々な食材に触れることができる。先代の思いが詰まった自然豊かな環境が子どもたちのフィールドであり、子どもたちと職員・保護者が一体となってりっこう幼稚園ならではの食育活動に取り組んでいる。薪木を火力として大鍋で作るみそ汁(炊き出し)は好評であり、収穫した果樹も一緒に調理して楽しんでいる。			
7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう指導・援助している			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように指導・援助している		○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている		○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組みを行っている		○非該当
評価項目7の講評			
事あるごとに病気やケガから身を守るすべを子どもたちに教え早寝名人を提唱している 日ごろから手洗いやうがいの励行を心がけ、病気やケガから身を守る方法や手段を事あるごとに子どもに伝えている。コロナ禍以降も清潔面・衛生面・安全面には特に配慮して、廊下や階段、バスの座席等の消毒にも努めている。子どもには囁託医による健康診断を実施して、健診結果と共に毎月の身体測定数値を連絡帳に添付して保護者に知らせている。幼稚園では子どもが体調良好で毎日思う存分遊びに集中できるよう「早寝名人」の声掛けをしており、生活リズムの安定を図るため保護者に対しても協力を促している。 園における感染症発生情報や子どもの健康維持に関する情報などを保護者に提供している 新入学した園児保護者には入園のしおりと園生活でのお願いの文章が配布され、園における決まり事を周知している。登園する際の検温等の健康チェックに関することや連絡帳の記入・電話連絡に関すること、ケガや病気の対応方法や感染症等に関わる登園許可の対応等が詳しく掲載されている。特に幼少期に発症しやすい感染症をリスト化し、初期症状から出席停止期間、登園許可書の必要の有無まで、感染症に対する対応方法を保護者に的確に伝えている。感染者が発生した際には速やかに保護者にも情報を伝え、拡大防止に努めている。 万一のケガ等に備え医療機関受診時の手順が決められている 園には養護職員配置はなく、けがをした際に簡単な応急処置ができるよう救急セットや嘔吐物処理セットが常備され、万一来備えている。ケガにより受診が必要となった場合には速やかに保護者に連絡して、近くの医院に搬送して応急手当や治療を受けている。ケガの程度や時間によって総合病院や大学病院等に搬送することになっており、園児引き渡し調査書を活用して適切に対処している。夢中になって遊ぶ子供たちにはケガが付き物だが、視診だけでは判断できない場合もあり、保護者への丁寧な状況説明も必要と考える。			

8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、生活形態や子育ての考え方の違いなど、個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の教育・保育の活動への参加を促している	○非該当

評価項目8の講評

PTA活動や懇談会などが保護者同士や保護者と職員との交流機会になっている

年2回、各クラス担任が個別面談をして子どもの様子を保護者に伝え、成長等についての相談の場を設けるなど、気軽に相談しやすい雰囲気作りに努めている。保護者会が年4回組み込まれ常に保護者と連携した保育をしており、PTA活動として新聞委員会、卒園対策委員会、なかよし係等がある。その他プランターの植え替えやクリスマス庭園装飾、畑作業から雪かきまで、多くの場面で保護者のボランティア活動によって園が支えられている。学年毎に親子懇親会を開催して、クラス対抗綱引きやゲームなどで職員と共に学年毎の交流を図っている。

保護者の養育力向上に役立つよう保育参観や運動会などへの参加を促している

保護者にはボランティア活動への積極的な協力を依頼し、園に足を運ぶ機会を多く作っている。来園時には子どもの様子や園内外の環境にも目配りし、園庭整備や飼育中の動物・遊具等にも直接触れる機会を持つなど、保育現場への理解を深めている。今年度ボランティアの協力による正門のポスターは、ちぎり絵で夢のある見事なポスターにリニューアルしている。保護者のための講演会を開いて療育力向上に努め、子育て広場開設に向けた取り組みや、保育時間中での保護者のサークル活動が可能となるよう、常に保護者と向き合って改善に努めている。

子育て支援策としてカウンセラーによる面談機会を提供している

PTA主催の特別支援講師による「みんな違った方がいいその子らしく生きる力を育む」と題した講演会には多くの保護者と職員が参加し、他の子どもと比べることなくありのままを受け止め、寄り添いながら共に成長を喜び合っていくことを確認している。子育てに困難をきたし対応策が見出せない保護者の要望に応じて子育て相談室を設けている。少し気がかりな事から心配事、困り事まで、専門講師やカウンセラーによる面談を準備している。療育ニーズの高まりから受られない児も多く存在して、様々な経験が積めるよう園としてもサポートしている。

9 評価項目9

地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当

評価項目9の講評

花の日の活動として消防署に出向いて花束を渡し日頃の感謝の気持ちを伝えている

「花のように周りの人たちを癒せる人になれますように」との願いを込め、花の日の活動として消防士に感謝の気持ちを込めて花を届けている。また火災や事故、災害から市民の安全と人命を守ることを使命とする消防署員との交流により、困っている人を助けるヒーロー的な正義感を養う機会としても捉えている。はしご車に乗ったり消防服を着たり、消火器の使い方を教わる等、初めて見る光景をワクワクとした表情で目を輝かせ、自ら消防士に質問するなど貴重な体験となっている。また法人内学童クラブの異年齢児とも行事を通して相互交流を図っている。

阿波踊りからジャズコンサートまで多くの人との出会いと交流を大切にしている

秋祭りのイベントでは地域の「きたまち阿波おどり振興会」による迫力のある阿波踊りが披露され、唄やお囃子の合間に一緒になって声掛けするなど、子どもも職員も保護者も会場にいる全員が一つになれる盛大な祭りとなっている。今年度初の試みとして開催された、「大人先生」ジャズコンサートでは、PTA役員や実行委員と共に子どもたちも知恵を出し合い、手作りの温かいコンサートとなるよう準備を進め、当日は生演奏に合わせた歌や観客のノリノリの姿を共有し、園で収穫した果実のジャムクッキーを振舞うなど初めてのライブを満喫している。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-1-2	事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している
タイトル①	人手不足に対応すべくインターンシップを活用して保育学生をアルバイトで採用している	
内容①	今まで実習生が多く来ていた大学でも保育系学部などが廃止され、実習生の数も減ってきている。保護者ニーズの多様化と事務作業なども増えたことから人員不足が生じており、職員アンケートでも「人員不足」の意見が多く聞かれる。その対策としてインターンシップを活用して保育学生をアルバイトとして採用し、人員不足を補填する取り組みを始めている。他にも、法人力行会のゲストルームを借り上げ住宅として活用する案も取り入れている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-1-1	利用希望者等に対してサービスの情報を提供している
タイトル②	令和4年5月にSNSを開設してタイムリーな情報発信に努めている	
内容②	ホームページのお知らせに令和4年5月にSNSを開設したことを伝え、できるだけタイムリーな情報発信に努めている。「たくさん遊んで心を育む」子ども達が主役です。一人ひとりの想いをうけとめ、心に寄り添う保育を大切にしています。と謳い、3つの方針である「遊び・食育・礼拝」の様子や、行事や炊き出し・果樹・課外活動に取り組む子どもたちの様子を写真にコメントを添えて分かりやすく伝えている。SNSで保育の生の姿が味わえることへの喜びの声が多く聞かれることが、保育者のモチベーションアップにもつながっていると考えている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-3	日常の教育・保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル③	園児同士の交流により子どもたちの生活が縦横に展開されるよう工夫している	
内容③	基本理念を大切に「感謝できる子ども」「生命を尊ぶ子ども」「あかるい子ども」「決まりを守る子ども」「探求心をもった子ども」に沿って、「たくさん遊んで、こころを育む」保育に取り組んでいる。神様に守られるぬくもりを感じ、安心して園生活ができるよう様々な取り組みをおこなっている。年齢別クラス分けが基本であるが、異年齢児とも交流できる縦割りの要素を取り入れた独自の保育が特長となっている。チャレンジコーナーやみんなの時間・かるがも広場等、様々な遊びを通して仲間と共に試行錯誤しながら個々の成長につなげている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	ICTやSNSの活用により保護者や社会のニーズ変化に対応している
	内容	人員不足と保護者など社会のニーズに応える形で、ICTやSNSの活用を積極的に進めている。職員アンケートでは「連絡用アプリを導入したことで保護者からの連絡の確認や園からのお知らせやお願いをしつたりが以前よりスムーズになった」、「30daysで子どもの写真、様子を気軽に見られるようになり保護者との会話がより広がるようになった」、「タブレット導入を進めたことで欠席の確認がとりやすくなった」など園の対応を歓迎する声が聞かれている。
2	タイトル	保護者が安心できるよう園バス対応手順を書面で説明している
	内容	通園バスあかコース・あおコースをラミネートでラインを引いて分かりやすく工夫し、前年度9月には「園バスの園児置き去り事件の報道」を受けて保護者が安心できるように、保護者に園バス対応で登園受け入れ・降園時の乗車方法を明記した書面を配布しているほか、2月には「園バス到着時の対応」を作成して周知徹底を図っている。今後も保護者が安心して子どもを預けられるように、検討内容に優先順位をつけるようにするようお願いしたい。
3	タイトル	「遊び・礼拝・食育」の基本方針を大切にしていより質の高い保育を目指している
	内容	恵まれた自然環境の中で子どもたちが思う存分遊びに没頭し、生き生きと過ごすことができ、認定こども園の安定した経営が可能となるよう、全職員が一丸となって保育環境の改善に努めている。少子化による園児確保策として、入園案内冊子を見直して園児募集の見学会を6月から始めている。また特別支援児の受け入れを強化して子育て支援の充実や子育て広場を開催すること等にも取り組んでいる。また、書道やピアノ教室、チャイロディング等の課外活動の充実を図り、保護者ニーズと時代に合致した園を目指している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	BCPは危機管理マニュアルをもとに早急に策定するよう望みたい
	内容	現状では感染症予防が重要で、それに次いで事故、侵入、地震・水害などの優先順位を考えている。緊急事態発生時の対応として全職員にプリントを配布し、危機管理状況に備えている。危機管理に対しては職員が誰でも対応できるよう、各種マニュアルを作成している。BCP(事業継続計画)は既に制度として義務化されているのだが、整備済みの危機管理マニュアルをもとに早急に策定することを希望したい。
2	タイトル	子どもを中心に保護者と園側の良好な関係構築を期待したい
	内容	入園のしおり「保護者心得」では、園内で起きた子ども同士のトラブル等は、園側が気づかなかった場合は担任に知らせるよう依頼しているほか、保護者宛ての書面「園生活においてのお願い」には、小さな怪我(擦り傷等)は連絡しない旨を伝えている。一方、保護者からは「子ども同士のトラブル」や「ケガ等の対応」への意見・要望のほか、「門のセキュリティ強化」、「遊具の安全性の確認」、「園内での子どもの確認(見失い)」を望む声があった。子どもを中心に保護者と園側でズレが生じないよう、良好な雰囲気づくりや関係性の構築を期待したい。
3	タイトル	幼稚園と家庭それぞれの役割を明確にして学習面でのサポートができると良いと考える
	内容	恵まれた自然環境を大切にキリスト教保育を主体とした長い歴史と伝統のある園は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえて学年ごとのカリキュラムを作り、子どもの思いに沿った保育を展開している。恵まれた広い敷地の自然と触れ合い、遊びを通して仲間との関わりを深め、様々な体験を積み重ねて人間的な成長を大切にしている。保護者アンケートでは「小学校入学に向けて学習面での教育も必要と感じる」との意見があった。幼稚園と家庭それぞれの役割を明確にして、学習面へのサポートができると良いと考える。